

平成21年4月20日

日本腎臓学会
日本透析医学会 会員 殿
日本小児腎臓学会

厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「進行性腎障害に関する調査研究」
腎疾患レジストリー・疫学分科会
分担研究者 横山 仁
田口 尚

平成21年度厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
「進行性腎障害に関する調査研究」腎疾患レジストリー・疫学分科会
研究協力者募集のご案内

謹啓

先生方におかれましては、ご清祥のことと存じ上げます。

この度、厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「進行性腎障害に関する調査研究」（松尾清一・主任研究者）において腎臓病総合レジストリー関連の予算配分が認められ、レジストリー・疫学分科会として班組織の改組が行われました（資料1）。今後、松尾班においても腎臓病総合レジストリーの登録拡大・疫学調査とともに二次研究の推進をこの分科会が担当することになります。

つきましては、登録施設の充実のため、松尾班の分担研究者あるいは協力研究者に登録されていない先生方を中心に研究協力者として新規に30施設程度を公募いたします。なお、既に日本腎臓学会・腎臓病総合レジストリーへの登録施設も参加可能です。また、各参加施設に対しては、旅費を含めて20万円（うち15万円が研究費）程度として支給予定です。

公募要件：

1. 日本腎臓学会会員資格を有すること（腎臓病総合レジストリーの登録等に必要）
2. UMIN IDを取得していること（日本腎臓学会会員には、既に配布済み）
3. 各施設で研究参加についての疫学研究・倫理審査が可能なこと（審査と同意取得が必要）
4. 1年間に腎生検例（疾患は問わない）あるいは腎生検を実施できなかった重点疾患例（ネフローゼ症候群、急速進行性腎炎症候群・血管炎症候群および多発性嚢胞腎）を合計40例以上登録可能なこと
5. 二次研究に参加可能なこと（この件に関して腎臓学会ホームページを参照ください）
6. 可能な限り研究協力者を多く受け入れる必要があるため、すでに進行性腎障害調査研究班の分担研究者・研究協力者になっている研究者の所属する施設は除く

以上の要件に関して、ご了解いただきますようお願い申し上げます。

なお、すでに進行性腎障害研究班の研究協力者になっている研究者に対する研究費配分は、それぞれの貢献度や役割に応じて、研究班においてが決定されることになっていきますのでご了承ください。

謹白

臨床関係連絡先：金沢医科大学医学部腎機能治療学（腎臓内科） 横山 仁
E-mail: h-yoko@kanazawa-med.ac.jp
〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1
TEL: 076-286-2211, FAX: 076-286-2786

病理関係連絡先：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態病理学 田口 尚
E-mail: taguchi@nagasaki-u.ac.jp
〒852-8523 長崎県長崎市坂本 1-12-4
TEL: 095-849-7000

<研究協力者の応募要項>

1. 申込期限：平成21年5月7日（木）午後5時（厳守）
2. 申込先： 名古屋大学大学院医学系研究科腎臓内科学進行性腎障害調査研究班事務局
メールアドレス： naokko@med.nagoya-u.ac.jp

下記の申込フォームに記入の上、必ずメールで申し込んでください。

3. 問合せ先：(申込先ではありません！ 申し込みは上記へお願いします)
 - 臨床関係連絡先：金沢医科大学医学部腎機能治療学（腎臓内科） 横山 仁
E-mail: h-yoko@kanazawa-med.ac.jp
〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1
TEL: 076-286-2211, FAX: 076-286-2786
 - 病理関係連絡先：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態病理学 田口 尚
E-mail: taguchi@nagasaki-u.ac.jp
〒852-8523 長崎県長崎市坂本 1-12-4
TEL: 095-849-7000
4. 申込フォーム：以下に必要事項を記入のうえ、コピー・ペーストでメールに貼り付けて返送ください。(次ページ参照)

平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業

「進行性腎障害に関する調査研究」腎疾患レジストリー・疫学分科会

の趣旨に賛同し、研究協力者として班研究に協力しますので、申請いたします。

研究協力者としての参加 希望	あり ・ なし (○で囲む)
氏名 (ふりがな)	
所属機関・教室名・職名	
卒業大学名・卒年	
生年月日・年令	
学位の有無 (種類)	あり (博士) ・ なし (○で囲む)
専門分野	
連絡先	TEL: FAX: e-mail address:

資料1：

1. 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「進行性腎障害に関する調査研究」腎疾患レジストリー・疫学分科会の研究目的と効果：

腎臓病の臨床疫学的調査研究システムを作成し、その実用性を検証することにある。具体的には、日本腎臓学会および日本透析医学会会員施設の協力を依頼し、インターネットを用いたオンラインにより第三者機関である大学病院医療情報ネットワーク研究センター（UMIN）上への登録により総合的なレジストリー（J-KDR：Japan Kidney Disease Registry）を構築し、本邦における腎臓病関連の医療統計の基礎とするとともに臨床的・疫学的・病理学的研究に活用する。

その内容は、1)システム構築（総合腎臓病レジストリー構築と運用）と2)システム応用（難病研究を中心とする臨床・疫学・病理研究への応用）である。

前者は、腎臓病で診療を受けた患者について、腎生検施行例、非施行例を含めて、通常診療で得られるデータ（実施施設名、病理診断施設名、病理組織診断、年齢、性別、尿検査所見、血液検査所見、腎機能検査所見など）のJ-KDR登録を促進する。登録された情報を基に、生検実施症例数、病理組織診断分類、臨床所見に関する統計調査を毎年行う。

システム応用として、本研究班の各種研究に対するJ-RBR/J-KDRデータの応用を促進する。このシステムを構築することによる効果は、インターネットを用いたオンライン電子システムを活用したわが国で初めての全国的なデータベース構築が可能となる。これにより、従来不明な点が多かった、わが国における小児期から成人期にいたる総ての年齢階層における腎臓病発症の実態が明らかになるとともに個々の症例の追跡による診療実態調査も可能となる。

2. 「進行性腎障害に関する調査研究」腎疾患レジストリー・疫学分科会の年度計画：

平成21年度～平成22年度の課題としてシステム構築とシステム応用を付図に示すごとく作成する。

（1）システム構築（総合腎臓病レジストリー構築と運用）

腎臓病で診療を受けた患者について、腎生検施行例（年間4000～6000例登録）、非施行例（年間2000～4000例登録）を含めて、通常診療で得られるデータのJ-KDR登録する。

1) 腎生検施行例は、従来からのJ-RBR登録を行う。腎生検実施施設より各症例の実施施設名、病理診断施設名、病理組織診断、年齢、性別、尿検査所見、血液検査所見、腎機能検査所見などをUMIN-Web上で登録する。Webと基本データ入力フォームの作成運用を分担研究者と杉山斉・研究協力員が担当する。登録された情報を基に、生検実施症例数、病理組織診断分類、臨床所見に関する統計調査を毎年実施し、病理評価に関して田口尚・分担研究員が担当する。腎機能・生命予後に関する調査を含めた研究全体の疫学調査解析を清原裕・協力研究員が指導する。

2) 腎生検非施行例については、臨床診断、年齢、性別、尿検査所見、血液検査所見、腎機能検査所見など、腎生検に関する情報を除いたデータを登録する。

3) 日本腎臓学会腎臓病総合レジストリー小委員会および本班の施設・医師（研究協力員）が参加して登録を開始する。

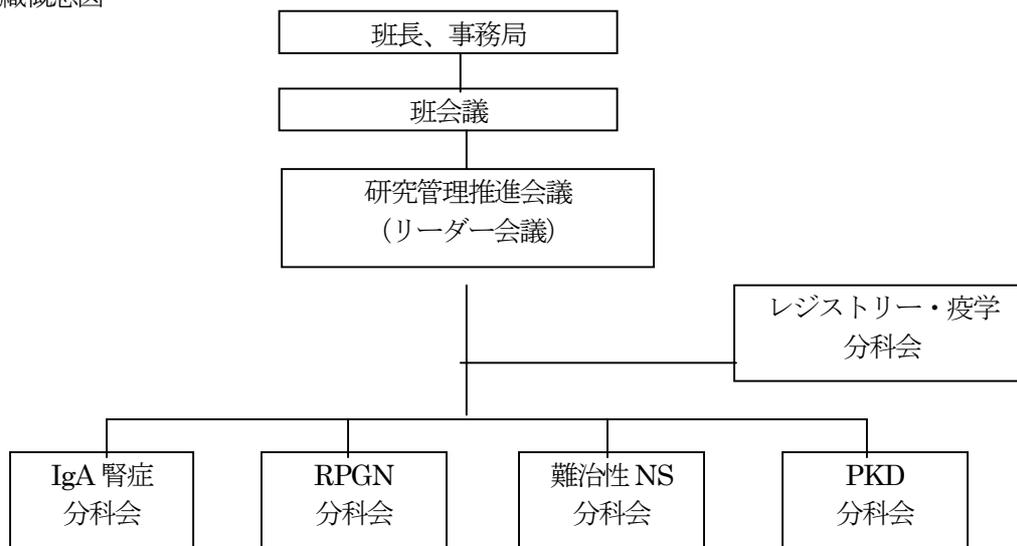
（2）システム応用（難病研究を中心とする臨床・疫学・病理研究への応用）

本研究の総合登録システムを基盤として、個別の疫学研究を行う。その場合には、個々の研究について必要なデータ表のアップロードを行う。とくに、各分科会と共同して本システムデータの応用を促進する仕様を策定するとともに解析する。

1) 難治性ネフローゼ症候群：難治性ネフローゼ症候群分科会（今井圓裕分科会長）と合同でネフローゼ症候群の前向き臨床研究（JNCS研究：腎生検がないケースを含めて年間1000～1500例）の登録解析を促進する。平成21年1月1日よりの登録調査を継続する。

- 2) 急速進行性腎炎症候群 (RPGN) 分科会 (山縣邦弘分科会長) と RPGN の総合レジストリーを行う。さらにこの分科会にある 1700 例の臨床資料を組み込み病理・疫学研究に応用する。
- 3) J-RBR への IgA 腎症登録例の前向き班研究 (IgA 腎症分科会：川村哲也・研究分担者) への繰り込みを行なう。
- 4) 多発性嚢胞腎 (堀江重郎分科会長) とシステムを応用した仕様作成とこれに基づく疫学調査を行なう。

1. 研究組織概念図



2. 研究計画・方法の付図

次ページを参照

